

増刊号 そよかせ

こどもをみまもる
しみんがいぎ



三郷市
マスコットキャラクター
かいちゃん&つぶちゃん

令和4年2月1日 第34号
発行 三郷市青少年育成市民会議
編集 広報啓発部会
事務局 三郷市教育委員会青少年課内
三郷市谷口570番地(三郷市青少年ホーム内)
☎048(953)1040 FAX 048(953)1068



少年の主張埼玉県大会

あなたの熱き思いを伝えてください!!



青少年育成埼玉県民会議では、昭和57年度から、青少年が広い視野に立ち物事を考える力を養うとともに、自分自身を見つめ直す機会とするために、少年の主張埼玉県大会を開催しています。

未来に向けて考えること(希望・提案・将来の夢)。日常生活や家庭生活、学校生活の中でチャレンジしていることや感じていることなどを作文にして、発表しています。

令和3年度は8月22日(日)さいたま共済会館大ホールで開催されました。小学生の部、中学生の部、高校生・一般の部それぞれ5名ずつが発表しました。

三郷市青少年育成市民会議と三郷市教育委員会が推薦した中から小学生2名、中学生2名が、参加しました。この4名の方の作文を紹介します。



目次

- P1～5 … 少年の主張埼玉県大会
- P6 …… 「家庭の日」ポスターコンクール
- P7 …… “三郷のいいところ”カルタ
- P8 …… 三郷市青少年育成市民会議の紹介

小学生の部

最優秀賞【知事賞】

『人』と『AI』の新たなつながり

三郷市彦成小学校 6年
岡本 希星

練習の成果を発揮でき、最優秀賞が取れうれしかった事、多くの主張も聞け勉強できた事を忘れません。これからも自分の意見もち学校の発表等で活かしていきたいです。ありがとうございました。

「シンチャオ！」

ある日、パソコンの場面に向かってお母さんが聞きなれない言葉をつぶやいていました。

「何しているの。」「ベトナム語の勉強をしているんだよ。」なぜそんなことをしているんだろうと疑問に思いました。

お母さんは医りょう機関で働いています。そこに来るベトナムの方と会話ができるようになって、少しでも安心できる場所を作りたいかったです。

「病気になったときや、ケガをしたときの事を思い出してごらん。いつも以上に心細くなるでしょ。言葉が通じない日本に住んでいるんだから、なおさら不安なはずだよ。」

近年、たくさんの外国の人たちが日本で働いています。その人たちは職場で、同じ国の人同士で情報交かんをしながら生活しているそうです。日本人よりも同じ国の人の方がたよりにされている事に、さみしさを感じました。

なぜ私たちがたよりにされないのか。それは生活の違いと「言葉のかべ」があるのではないのでしょうか。ぼくも家族で過ごすときほど安心することはありません。いつもいっしょにいる友達の家で一人で遊びに行くだけでも、やっぱりきん張します。失礼なことをしてはいけないと気を使ってしまうのです。それは友達の家にも決まりがあり、ぼくの家とはちがう家族で、小さい「社会」だと思っているからです。だから習慣も言葉もちがう外国の人たちは、友達の家で経験している以上の不安や大変さを味わっていると思うと心が痛みました。これではいけないと考えるきっかけになったのです。



しかし、なぜかお母さんは勉強をあまりしなくなりました。ぼくは理由を聞きました。「今はほん訳機やアプリがあるから、言葉を覚える代わりにそれを使おうと思っているんだ。色々な国の言葉を使えるからね。」ぼくは、とても残念でさみしくなりました。人とのつながりが機械で行われる世の中になりつつあると感じたからです。このまま便利さを手に入れるための「機械」が中心となってしまう、人と人の温かみを直接感じられる「機会」を失ってもいいのでしょうか。

もやもやした気持ちをかかえていると、お母さんが続きを聞かせてくれました。「外国の人に声をかけられた時、ほん訳機などの「機械」が、会話をする「機会」を作ってくれたの。相手が何をはなしているのか分かったら、勉強して覚えた言葉やジェスチャーを使って、言いたいことを伝えているんだよ。」

その話を聞いて、ぼくの心にあった雲が取れ、太陽がさしこんだような明るい気持ちになりました。機械では人の温かみは感じられません。だけど機会は、会話のきっかけを作ってくれ、言葉を知らなくてもより深い話ができることにつながるのです。お母さんは笑顔で関わることも心がけているそうです。言葉だけでなく、ジェスチャーや表情で、人への「想い」を届けることを大切にしていきたいと強く強く感じたのです。

ぼくの友達や知り合いにも、多くの外国の人がいます。ですが、残念ながらその国の文化や言葉をよく知りません。他の国を知ることで心の距りが縮まります。かんたんな言葉を覚え、笑顔で交わせるようになれば、もっとお互いに歩み寄れます。これからは、そのきっかけになってくれるのが機械、「AI」であるかもしれません。人と機械が共存していく世の中に、今とてもわくわくする気持ちを抱いています。

多くの国の人を訪れる日本。だれもが住みやすい日本にするため、たくさんの国の文化や言葉を学んでいきたいです。機械で深い理解をしながら会話し、「言葉のかべ」を笑顔で乗り越えたいと思います。

小学生の部

優秀賞【教育長賞】・「WATABOKU」特別賞

もったいないね

三郷市丹後小学校 5 年
佐藤 由椰



大勢の方の前での発表は少し緊張しましたが、自信をもって発表でき良かったです。私にとって貴重な経験となりました。工夫してものを最後まで使うことを楽しんで続けていきたいと思います。

わたしは、八十八才のおばあちゃんと住んでいます。そんなおばあちゃんは、「もったいないね」と言うのが口ぐせです。

ある日おばあちゃんの部屋に行くと、おばあちゃんが短いえん筆をカッターナイフでけずっていました。私が、「電動えん筆けずりでけずってこようか。」と聞くと、おばあちゃんは「便利だけど。電動えん筆けずりでけずると余計にけずられてしまって早く短くなってしまふでしょ。もったいないからおばあちゃんは使う分だけけずるんだよ。」と言いました。

おばあちゃんは、「戦争で食べ物がない時代を経験しているから、えん筆でも消しゴムでも紙切れ一枚でも大切に使っているんだよ。」と教えてくれました。今のわたしには、えん筆やノートが簡単に手に入らないということがあまり想像できません。けれど、おばあちゃんたちにとってはえん筆一本だって宝物のように大切だったのだと思いました。

おばあちゃんの部屋を見渡すと、他にも工夫して使っているものがたくさんありました。例えば、広告のうらが白い紙は小さく切ってクリップで止め、メモ帳にしています。箱のティッシュペーパーは半分に切り、半分の大きさにして使っています。目薬を差したときなどに少し使うのにむだにならないように使うためです。ティッシュペーパーの空き箱は引き出しのしきりに使っています。古くなったシーツは小さく切って、そうじに使います。もしかしたら、このようなことを言うとケチとか貧乏くさいとかいう人もいるかもしれません。しかしわたしはそうは思いません。おばあちゃん



から、欲しくても物が買えなかった戦争中の話を聞き、物を大事にすることの大切さがよく分かったからです。それからわたしは、おばあちゃんのように物を大切に使うように心がけるようになりました。

わたしはすぐに家のあちらこちらにあった小さくなった消しゴムや短くなったえん筆を集め、まとめて入れておく箱を作りました。短いえん筆は長いキャップをはめて、持ち方に気をつけながら使うようにしています。こうすると家で最後まで使い切ることができます。クッキーの空き箱は、机の引き出しの文ぼう具を整理する仕切りに利用しています。他にも、おばあちゃんのまねをして広告のうら紙でメモ帳を作りました。計算用のノートをして使っています。

今までのわたしをふり返ってみると、ノートやのりなどの文ぼう具を、最後まで使い切ることができなかったことがありました。他にもまだまだ、最後まで大切に使うことができなかったものがあるかもしれません。おばあちゃんの話聞いた後、わたしは自分のものの使い方をとても反省しました。

今はお店に行けば物がたくさん売っています。お金をはらえば買うことができます。しかし、本当に必要なものなのかを考えて買わないとむだになってしまうことがあると思います。本当に必要かどうかを考え、自分が何をどれくらい持っているかをわかっていればむだな買い物をしなくなります。ふだんから整理整頓をしておくことも大切です。まだ使えそうなものは、工夫をして最後まで使いたいです。今買わなくてはいけなのか、最後まで使いきれののかなどよく考えてから買うようにしたいと思います。

小さいことかもしれないけれど、このようなことの積み重ねがごみを減らすことにもつながると思います。一人ひとりの心がけで、未来の美しい地球を守ることができます。ものを最後まで大事に使うことは、とても大切なことだと思いました。

わたしは、おばあちゃんの口ぐせである「もったいないね」という言葉が大好きになりました。

中学生の部

優良賞【県民会議会長賞】・「ポジティブネットYMCA特別賞」

命の大切さ

三郷市立前川中学校 3年
中村 岬太



私は少年の主張大会に出て、改めて母の分まで生きようと思いました。そしてこれからの人生楽しんでいきたいです。

「自分の命を大切にしてください」と母からの言葉が心に突き刺さった。その後母は天国へと旅立った。

最近自殺をしてしまう人のニュースが多い。その中でも、インターネットの普及により、脅威を増した「いじめ」「誹謗中傷」などが、原因となっているものが多くなっている。しかし、私は誹謗中傷をされても死なないでほしい。なぜなら、生きたくても生きられない人が大勢いるからだ。

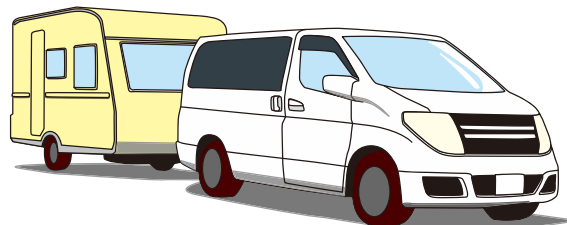
私の母は、肺ガンで亡くなった。四十一歳という短い人生だった。「自分の子どもが成人した姿が見てみたい」「孫の顔が見てみたい」とこれから先、健康であれば叶っていたであろう未来を語っていた。それが、ガンという病気のせいで奪われてしまったのだ。そんな母を身近で見てきたからこそ強く願う。病気でもないのに自ら命を粗末にしてしまうのはやめてくれ。しかし、自ら命を絶ってしまう人よりそこまで他人を追いこんでしまう人が一番害悪だ。

皆さんは、「木村花さん」を知っているだろうか。インターネットの誹謗中傷が原因で亡くなってしまった。インターネット上では、顔が見えないのをいいことに、他人のことを平気で傷つけている人がある。匿名で誰でも書きこむことは利点もあり、正しく使えば得をすることもある。しかし、一人一人の悪意ある行動によって他人を傷つけたり、死へと追いこんでしまうという側面も持っている。心ない一言によって一人一人の人生が終わってしまうこともあるのだ。けれど、そんな人に聞いてもらいたいことがある。

母は、私が小学校二年生の時に肺ガンを診断された。それから五年間の闘病生活を送った。母は、



元々看護師なので様々な患者を見てきている。そのため、闘病の苦しみやつらさをわかっていただと思う。でも母は病気だということを私達が忘れてしまうほど元気で、家族に笑顔で接してくれていた。そして、母の体がまだ動けるときは色々な場所へ行った。キャンプや遊園地など沢山の思い出を作った。父は、季節に関係なくキャンプに行けるように、母の為にキャンピングトレーラー



を買った。しかし、私が小学校六年生の時に母の病気が悪化してしまった。そして病院の先生から余命宣告された。「桜が咲く頃には、生きていないかもしれません。」突然のことに、言葉を失った。私は帰宅して、その日はずっと泣いていた。次の日も母は、つらいはずなのに、いつも通り生活していた。しかし、突然母の病態は一変し、歩けなくなりました。けれど、子どもたちに自分の弱い姿を見せたくない母は、意地でもトイレには頑張っていた。その母の強い心に私は「自分ではとても真似することができない」と思った。そして、平成三十一年三月二十五日母がこの世から去った。何も考えられず、泣くことしかできなかった。「あなたは強く生きなさい。」母からの言葉を思い出し、家族を励まし続けた。葬儀の日になり、その日は色々な人が集まってくれた。友人、父、母の職場の方々など多くの人から母は愛されていたのだと感じた。私は誓った。「母の分も生きなければならない」と。

私の母のように生きたくても生きられない人は沢山いる。自ら命を絶つなどの行為は、絶対にしてはいけない。誹謗中傷している人は自分がしている行為を改めて考え直してほしい。

「家庭の日」ポスターコンクール

埼玉県、埼玉県教育委員会及び青少年育成埼玉県民会議では、家族みんなが温かくふれあう日として毎月第3日曜日を「家庭の日」と定め、普及を図っています。その一環として、「家庭の日」ポスターコンクールは、親子や家族のふれあいなどを描いたポスターを募集・展示することにより、家庭の果たす役割の重要性を皆さんに改めて考えていただくことを目的に平成5年から実施しています。

令和3年度埼玉県 「家庭の日」ポスターコンクールの 入賞作品

小学生の部【優良賞】

「キャンプ場でポップコーンパーティー」



丹後小学校3年 菅原 あおいさん

小学生の部【テレ玉特別賞】

「夜空の花火 きれいだな」



幸房小学校3年 吉田 妃香俐さん

小学生の部【最優秀賞】

「我が家は オリンピック応援団」



前谷小学校6年 益子 美海さん

【入選者】

「おとうさんのたんじょうび」

丹後小学校1年 足利 心春さん

「たのしい花火」

八木郷小学校1年 山崎 愛奈さん

「しあわせトラップ」

丹後小学校2年 中島 哩さん

「ねるのが大すき」

丹後小学校2年 永井 芳宙さん

「パパと楽しい卓球をする日」

立花小学校2年 叶 夢辰さん

「夜空の花火 きれいだな」

幸房小学校3年 吉田 妃香俐さん

「楽しかった春夏秋冬」

幸房小学校4年 春山 一華さん

「特大水でっぼうで遊んだ夏キャンプ」

彦郷小学校6年 武下 結さん

「思い出」

前川中学校2年 坂井 唯愛さん

“三郷のいいところ” カルタ

新春恒例の「彩の国 21 世紀郷土かるた」三郷大会は、各子ども会からの男女混合チームによる団体戦と個人戦により総合体育館を会場に開催され、元気な声が会場に響き渡ります。この大会で上位に選出されると、埼玉県全地域から選抜される県大会に進むことができます。

かるたの札は、埼玉県ゆかりの人・場所・行事等で作られています。しかし、残念なことに、三郷市ゆかりの札はありません。そこで、三郷市子ども会育成連絡協議会で三郷市のオリジナルかるたを作成しました。

市内の小中学生から、三郷の名所・旧跡・風景を題材にしたかるた読み札の公募をし、たくさんの作品から選ばれた 46 作品で「“三郷のいいところ” カルタ」が完成しました。

わが三郷を「ふるさと」として後世に伝えられるように伝統的なお正月遊び「かるた」を通して皆さんで楽しんでください。

三郷市子ども会育成連絡協議会 会長 浅野 俊一

“三郷のいいところ” カルタ

【制作・著作・発行】

三郷市子ども会育成連絡協議会

【頒布価格】

650円(税込)

【頒布場所】

- 三郷市青少年ホーム
〒 341-0042 三郷市谷口 570(勤労者体育館隣接)
- ららぽーとみさと
〒 341-8550 埼玉県三郷市新三郷ららシティ 3-1-1(ららぽーと新三郷内)
- (一社)三郷市観光協会
〒 341-8501 埼玉県三郷市花和田 648-1(三郷市役所 2 階)

今後は、三郷カルタの札になった場所を巡る
スタンプラリーなど様々な企画を計画しているよ！
楽しみに待っていてね！



絵札にブックフィルムを貼るなどの工夫をし、その都度、除菌消毒できるようにして、楽しんでいます。

(写真提供：特定非営利活動法人 MiKO ねっと)

活動備品を 貸出します。

青少年の体験活動を促進するため、活動備品の貸出をしています。

○利用の範囲

利用することができるのは、三郷市青少年育成市民会議員及び、三郷市内で営利を目的としない青少年活動を行う団体及び個人です。

○利用の期間

原則として1週間以内です。

○利用の申込

市民会議事務局の三郷市教育委員会青少年課（三郷市青少年ホーム）に利用申請書を提出してください。

○損害賠償

利用者は、故意又は重大な過失により市民会議活動備品を損傷し、又は亡失したときは、会長の指示に従いこれを原形に復するか又はその損害を賠償していただきます。

活動備品の指導者派遣について

活動備品を利用してみたいが使用方法が分からない場合は、指導者を派遣し、利用する上でのお手伝いができる場合があります。青少年課にご相談ください。

下記の写真以外にもアウトドア用品等のグッズがあります。初めての方、試してみたい方などお気軽にご利用ください。
(QRコードで確認できます)



○2WAYテーブルグリル



○ダッチオーブン



○焚き火台



○燻製機



○ランタン・ランタンポール

編集後記

今号は埼玉県青少年の主張大会で、小学生の部16,799点、中学生の部10,629点の中三郷市で4名の発表者が選ばれたことから特集を組んでみました。発表の様子は、下記の県ホームページもしくは市役所のホームページでご覧になることができます。またアウク ナナ エルシーさんは第43回少年の主張全国大会で国立青少年教育振興機構努力賞を受賞しました。

県のホームページ

<http://pref.saitama.lg.jp/90307/kenminkaigitop/shuchoutaikai/documents/shushou03/html>



市役所のホームページ

<http://city.misato.lg.jp/item/40286.htm#ContentPane>



市民会議の会員を募集しています！

目的に賛同される方は、個人、団体を問わず、誰でも参加できます。常時会員を募集していますので趣旨に賛同の上、入会を希望される方は、市民会議事務局へお問い合わせください。

青少年育成市民会議について



(三郷市ホームページが開きます)